

■ OnAir 1500 ユーザーレポート

九州朝日放送株式会社 様

OnAir 1500 -6

KBC

ラジオ第6スタジオをOnAir 1500で更新



九州朝日放送株式会社
ラジオ局 編成業務部
皆元 健太

KBC ラジオ第6スタジオ

これまでのKBCラジオ第6副調整室は、スタジオ録音機能がなく、主に「ラジオ収録番組の編集作業」「(現在ではあまり使用しなかった) 6mm や DAT、ターンテーブル、VTRなど、各アナログ素材(ベースバンド素材)間のダビング作業」をするためのスペースでした。

KBCラジオでは数年前から、収録番組が増加する傾向があり、また、保守など技術的なリスク分散を考慮して、「マイク1本のスタジオ収録機能を持つコンパクトなスタジオ」を作ろうと、第6副調整室は新たなコンセプトのスタジオ化として更新しました(以下、6スタ)。

6スタとOnAir 1500

遮音・吸音を考えながら、3畳程度のアナブースを製作しようとすると、6スタのミキサールームはわずか5畳余りしかなくなってしまう、各種機材の設置スペース確保には工夫が必要でした。当然、メインミキサーのサーフェイスはできるだけコンパクトな方がよく、但し、ワンマン機能も含め1つのスタジオとしての機能は全て兼ね備えてなければならぬ、というのが機種選定における条件でした。

OnAir 1500は、サーフェイス上の非常に小さなエリア内で、フェーダー単位での素材変更・各種モニターセレクト・各種音量調整・トークバック・スナップショット・タイマー表示などが可能です。また、運用的にありがたいのが、PGMミックス収録に加え、「コメントのみ収録」などに利用できるRECパスの設定が、サーフェイス上のボタンで簡単にできることで、視覚的にも大変わかりやすいため、ユーザーからは高評価です。もちろん、EQ

やDYNの機能もあり、6スタのコンセプトからすると「できないことがない」という感想です。OnAir 1500は、拡張すれば最大12フェーダー仕様まで増設が可能ですが、KBCの場合、マイク1本のスタジオで7本以上フェーダーを同時に上げることがあるのか?という考えもあり、今回はあえて6フェーダー仕様で納入することにしました。

よかったこと

STUDER製のミキシングコンソールの長所は、VISTAシリーズにしても、OnAirシリーズにしても、「音質の良さ」と、文字通り直感的な運用を可能にする「操作性の良さ」であると思います。

コストを極力抑えながら作った新しいコンセプトの6スタ。その担当者としては、実際に使う制作チームの満足度がとても気になるどころでしたが、思った以上の高評価で安心しました。3月の導入以来、ずっと高い稼働率となっており、やはりこのコンセプトで更新したことが間違っていなかったと思っています。

また、単に機材を納入するだけでなく、KBC内のDAWネットワークやマスター素材とのやりとりなど他設備との連携についても、今回の更新作業の趣旨を理解し快く協力していただいた、スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト株式会社の皆様には心から感謝しています。

